

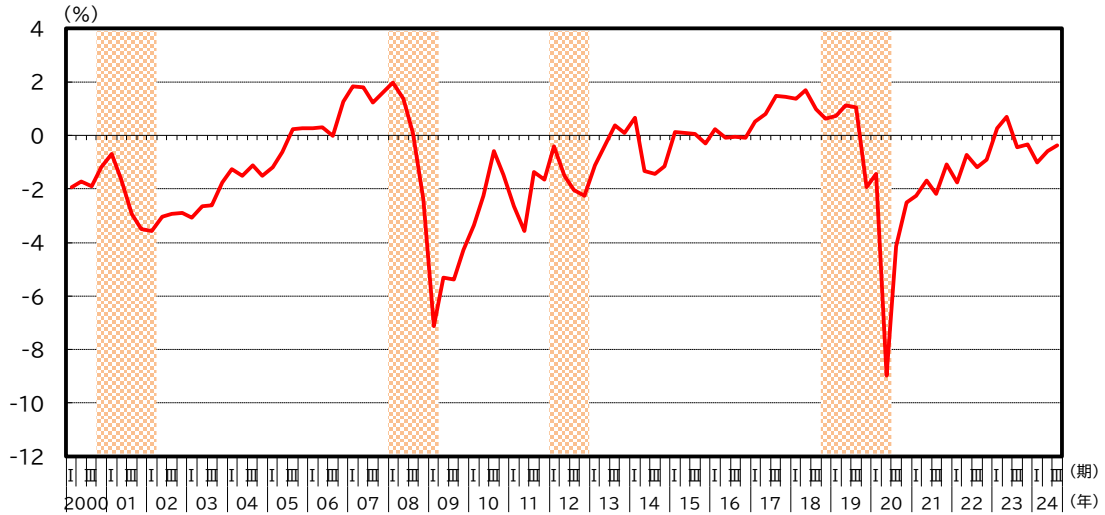
## 2024年7-9月期GDP2次速報後のGDPギャップの推計結果について

1. 2024年7-9月期のGDP2次速報を反映したGDPギャップ(注1~2)の推計結果は▲0.4%となった(図1~2、表1)。
2. 2024年7-9月期のGDP1次速報時点時(▲0.5%)から、0.1%pt上方改定されているが、これは主に、2024年7-9月期の実質GDP成長率がプラス0.2%からプラス0.3%に0.1%pt上方改定されたことによる。

(注1) GDPギャップ=(実際のGDP-潜在GDP)/潜在GDP。この推計にあたっては、潜在GDPを「経済の過去のトレンドからみて平均的な水準で生産要素を投入した時に実現可能なGDP」と定義している。GDPギャップの大きさについては、前提となるデータや推計方法によって結果が大きく異なるため、相当の幅をもってみる必要がある。GDPギャップの推計方法の詳細は、経済財政分析ディスカッションペーパー(DP/17-3)及び今週の指標No. 1278、No. 1294、No. 1310を参照のこと。

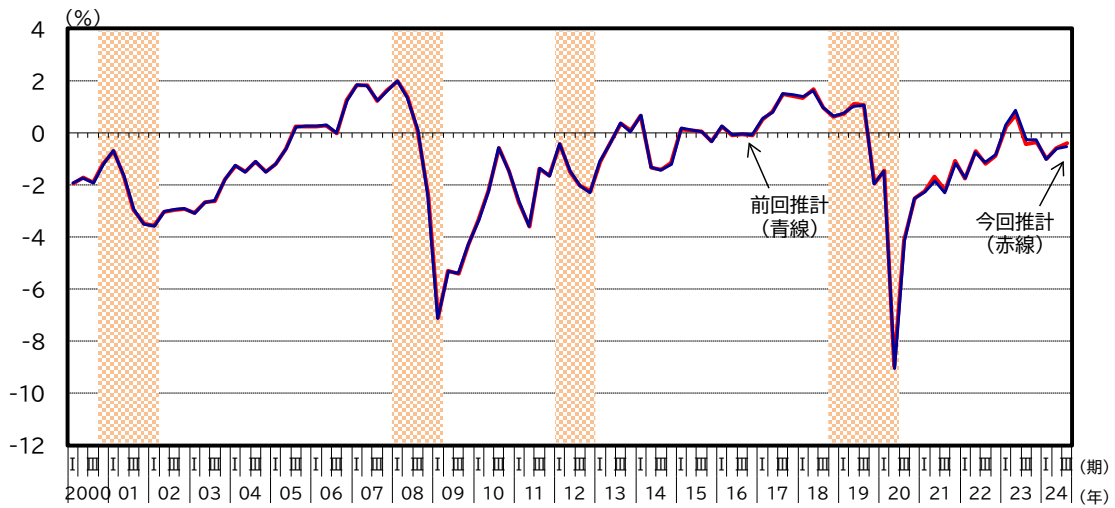
(注2) なお、2023年度国民経済計算年次推計においては、詳細な基礎統計の反映等により、GDPの原系列が2020年に遡って改定されており(季節調整系列は毎回の四半期別GDP速報時と同様に1994年に遡って改定)、その改定結果を今回の推計に反映しているため、GDPギャップや潜在成長率は、近年を中心に過去に遡って改定されている。

図1 GDPギャップの推移



(備考)  
 1. 内閣府「国民経済計算」、「固定資本ストック速報」、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。  
 2. シャドローは景気後退期。

図2 GDPギャップの新旧比較



(備考)  
 1. 内閣府「国民経済計算」、「固定資本ストック速報」、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。  
 2. シャドローは景気後退期。

表1 GDPギャップの推移

	2017				18				19				20			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
24年7-9月期2次QE後	0.5	0.8	1.5	1.4	1.4	1.7	1.0	0.6	0.7	1.1	1.1	▲2.0	▲1.4	▲9.0	▲4.1	▲2.5
24年7-9月期1次QE後	0.6	0.8	1.5	1.5	1.4	1.6	1.0	0.6	0.8	1.0	1.1	▲1.9	▲1.5	▲9.1	▲4.2	▲2.5

	2021				22				23				24			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
24年7-9月期2次QE後	▲2.2	▲1.7	▲2.2	▲1.1	▲1.7	▲0.7	▲1.2	▲0.9	0.2	0.7	▲0.4	▲0.4	▲1.0	▲0.6	▲0.4	
24年7-9月期1次QE後	▲2.3	▲1.9	▲2.3	▲1.2	▲1.8	▲0.7	▲1.1	▲0.8	0.3	0.9	▲0.3	▲0.3	▲1.0	▲0.6	▲0.5	

担当:参事官(経済財政分析-総括担当)付 下宮 大河、酒井 遼

直通:03-6257-1572

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。